

[報告]

## 中等教育研究センター 2012年度活動報告

植 田 健 男  
濱 口 輝 士  
米 津 直 希  
富 樫 千 紘

名古屋大学中等教育研究センターは、名古屋大学大学院教育発達科学研究科における中等教育研究の蓄積の上に立ち、高等教育の充実のために中等教育をどのように改善していくかについて、先導的な実験研究開発を行い、理論的・実践的研究成果を発信していくことを目的としている。本年は、「学びの杜・学術コース」、「中津川プロジェクト」、「オープンクラス」、「センター紀要発行」、そして、「大学発学校支援プロジェクト（名古屋大学）」を主たる活動として進めてきた。

それぞれの概要を以下に示す。

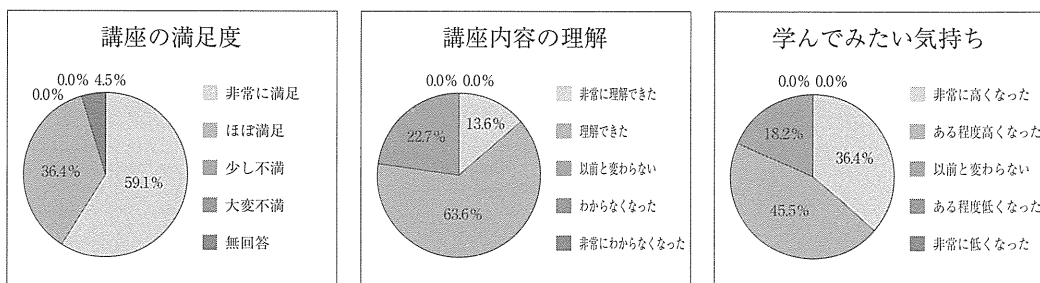
### 1. 学びの杜・学術コース

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生を対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しみと厳しさを体験してもらうという目的で開設された「学術的な探究講座」である。高校生が大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、各自の適性や、興味・関心を育み、将来のヴィジョンを広げ、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されている。

今年度は、電子工学探究講座、コンピュータ活用探究講座、メンテナンス工学探究講座、生命科学探究講座、地球市民学探究講座、人間発達科学探究講座、視覚文化探究講座、文学探究講座、地域医療探究講座の計9講座が開講された。

以下に、それぞれの講座後に行ったアンケートの結果を記す。なお、生命科学探究講座及び地球市民学探究講座は、名古屋大学教育学部附属学校が主として企画と実際の運営を行っているため、ここでは割愛する。また人間発達科学探究講座は、コースごとにアンケートを実施したが、ここでは全コースの総計を記す。

<電子工学探求講座> 受講者：22名



○講座の満足度

日本語と英語の音域の共通点や違いを詳しく学ぶことができ、なぜ日本人にとって英語を聞き取ることが難しいのかという点について、学ぶことができたという生徒が多かった。講義だけでなく実践も行うことによって理解も深まったようである。

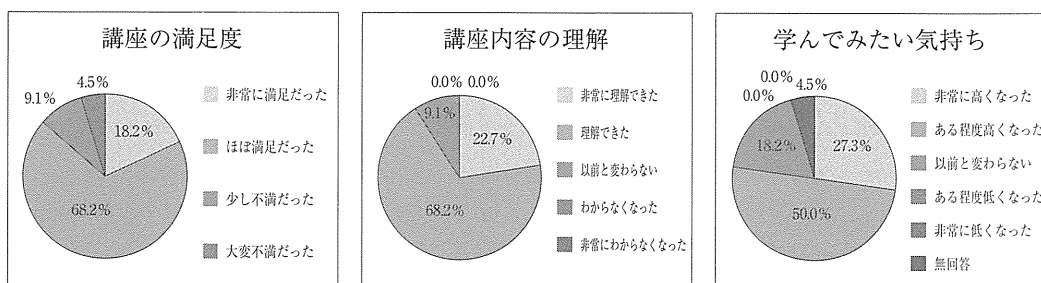
○講座内容の理解

講座の受講を通して、音と電子工学の関わりについて理解できたという意見が多かった。最初は電子工学に対して難しいというイメージを持っていたものの、実際に回路を作ることで理解も深まり、新たに興味を持ったという生徒もいた。

○将来電子工学を学んでみたいという気持ちの変化

電子機器や電子回路の仕組みや考え方について深く学んでみたいという意見が多かった。また、今回学んだことを踏まえて新たな技術の発展を考えていきたいという生徒もいた。

<コンピュータ活用探究講座> 受講者：22名



○講座の満足度

コンピュータの新たな活用法を学ぶことができたなど、講座に対してはおおむね満足したという生徒が多かったようである。一方で、講義を聞くだけでなく、実際に自分でソフトを操作する時間が確保されていればなおよかったという意見も多かった。

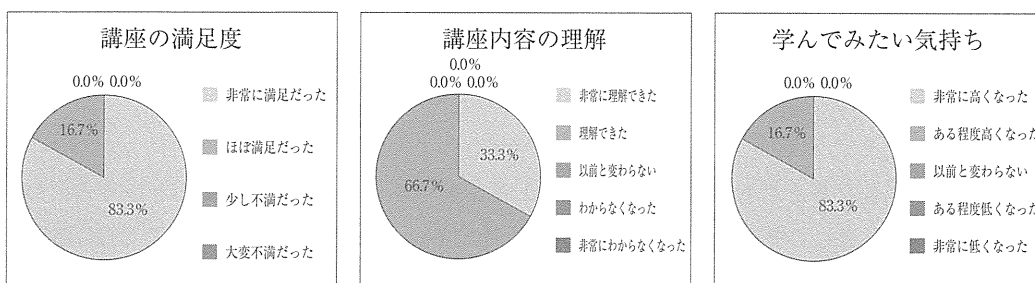
### ○講座内容の理解

コンピュータを活用して様々なことをシミュレーションしてみたり可視化したりすることで、物理や数学の理解の助けになるという意見が多かった。また、講座の内容を踏まえて、高校の授業においても活用し、様々な物理現象をイメージすることに役立ててみたいという意見も見られた。

### ○将来コンピュータの活用について学んでみたいという気持ちの変化

コンピュータを活用して様々な関数や自然現象を観察してみたいという意見が多かった。また、プログラミングを学びたいという意見も多く見られ、コンピュータを様々な場面で活用するにあたって、生徒の学習意欲を喚起させることができたと考えられる。

### <メンテナンス工学探究講座> 受講者：6名



### ○講座の満足度

橋の寿命について、講座や実習を通してどのように橋が劣化していくのかということが分かり、満足だったという回答が多かった。また、図や表などを使用したことで、生徒にとっては分かりやすい内容になっていたと考えられる。

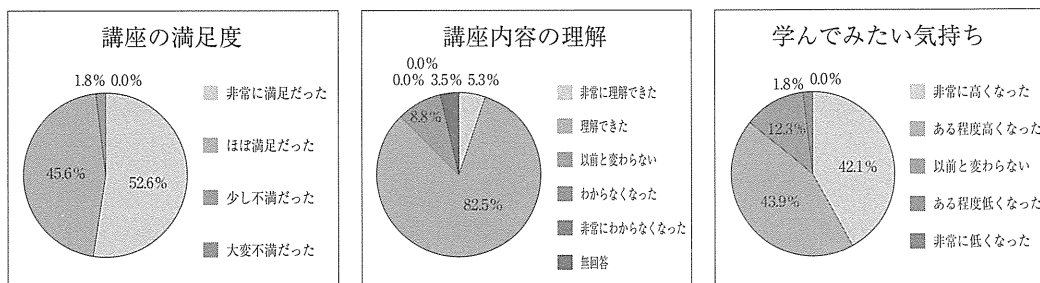
### ○講座内容の理解

橋を題材にした講座の中で、これまで生徒が軽視されがちであったと感じているメンテナンスが非常に重要であるとわかったという回答が見られ、これからの社会に必要な技術であると考えた生徒が多かった。メンテナンス工学について知っている生徒は少なかったと思われるが、講座を受けたことで、メンテナンス工学という領域についての理解は深まったようである。

### ○将来メンテナンス工学を学んでみたいという気持ちの変化

コンクリートが鉄のさびなどによってどのようなメカニズムでひび割れを起こしていくのか、また劣化した橋に対してどのような処置を行うのかということについて学んでみたいという回答が多く、メンテナンス工学についてさらに学びたいという生徒が多かった。

## <人間発達科学探究講座> 受講者：57名



### ○講座の満足度

#### ・第1コース

歴史を通して教育を研究するという点が、生徒に対して新たな視点を提供したようである。史料を使って歴史の様々な側面が見られるとともに、教育の新たな一面を知ることができてよかったという回答が多かった。

#### ・第2コース

教師として生徒に教えるということにはどのような難しさや楽しさがあるのかという点について、講義や実践を通して学ぶことができたという生徒が多かった。また、実際の授業記録に触れることで、授業の臨場感が伝わったという回答もあった。

#### ・第3コース

異文化に触れることによって新たな発見につながったようである。また写真等を通して講義を行ったことでわかりやすかったという評価も見られた。

#### ・第4コース

講義の内容をその場で実際に実践できたことが生徒の満足度につながったと考えられる。自分たちで実際にアンケートの質問項目を考えたり、アンケートに答えたりすることでわかりやすく学習することができたという回答が多かった。

#### ・第5コース

少人数であったものの、グループワークにおいては意見の交流が行いやすかったようである。

### ○講座内容の理解

#### ・第1コース

教育においては、学校だけでなく家庭での生活が大きく関係しているということを知り、勉強になったと回答した生徒が多かった。また、講座を受けて人間というテーマの中には家族関係や友人関係といったたくさんの要素があり、その一つひとつが社会の問題につながっているという意見も見られた。

#### ・第2コース

授業研究の講義及び実践を経験したことで、大人と子どもの考え方や常識の違いを知り、実際の

授業のあり方や方法をさらに深める必要があるとの回答が見られた。生徒個人によって理解する速度が異なるということを知り、授業研究を行うことの意義を実感できたようである。

・第3コース

講座をきっかけとして、日本と様々な国との交流が深まる中で、他国についてさらに理解する必要があるという意見が見られた。異文化に触れる中で新たな面から人間の発達について考えることができたようである。

・第4コース

質問項目の作成や回答を実際に行うことで、アンケートにおいて注意する必要がある点を学ぶことができたようである。また、心理学においても様々分野に分かれているため、それらを幅広く学習したいという意見もあった。

・第5コース

臨床心理学について学ぶ中で、カウンセリングやメンタルケアだけでなく、予防ということも重要であるということが理解できたという回答が多く見られた。

## ○人間発達科学を学んでみたいという気持ちの変化

・第1コース

少子化や核家族化に伴い、人間関係が希薄化しつつある中で、地域との関わり、教師と学校・生徒・家族との関わりなど、多面的な立場から教育について学びたいという意見が見られる。教育ということを考えるに当たり、様々な面から考えていきたいという生徒が多かったようである。

・第2コース

講座を受け、教師になるために必要なことは何かを考え、子どもの印象に残るような授業を行うにはどうしたらいいのかをさらに考えたいと思った生徒が多かったようである。全体として、子どもへの教え方について詳しく学びたいという回答が多かった。

・第3コース

中国の分化に触れることを通して、中国文化に興味を持ち、中国と日本の関係についてさらに理解していきたいという回答が見られた。

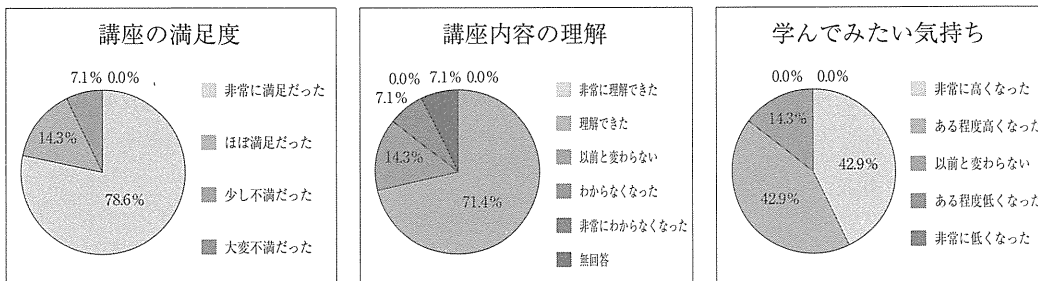
・第4コース

特に統計という面について、これから生徒自身が受けるテスト等がどのような意味を持っているのか深く考えてみたいという回答が見られる。

・第5コース

社会の中での心理学の活用や子どもの心の発達について学んでみたいという回答があった。また、社会臨床心理学や犯罪心理学などの分野を学んでみたいという生徒もいた。

<視覚文化探究講座> 受講者：14名



○講座の満足度

実際に受講者同士で写真を撮り合うだけでなく、写真を撮る側・撮られる側が相互に要望を出し合って進めていくことで、それぞれの視点の違いを学ぶことができたという回答する生徒が多かった。また、撮られた写真を観察することで新たな写真の撮り方に気付くなど、刺激を受けたようである。

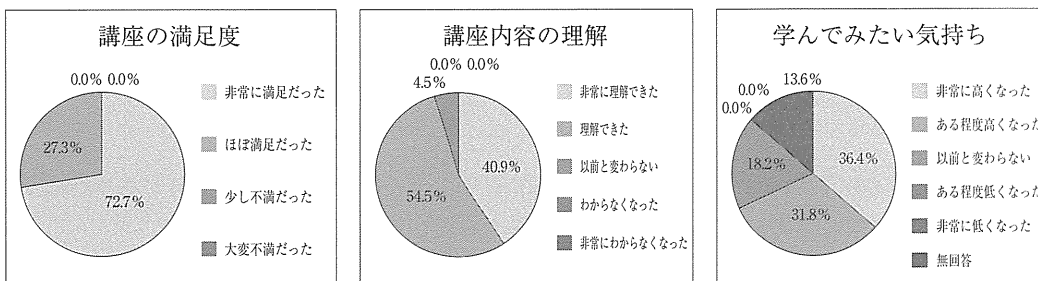
○講座内容の理解

人物の写真を撮ることで、顔の表情や体の動きからその人の様々な側面を見ることができるとい回答が多かった。さらに、講座を受けて、新聞や広告等に載っている写真に対してもこれまでとは違った視点で見ることができるようになったという生徒もいた。

○将来視覚文化について学んでみたいという気持ちの変化

写真を通して自分の伝えたいことを伝えられる写真を撮ったり編集したりするためには、どのようなことが必要なのか考えてみたいという回答があった。また、人の視覚に対する働きかけによって、わかりやすくメッセージを伝えるためにはどうしたらいいのかという疑問を抱いた生徒もいたようである。

<文学探究講座 第1部> 受講者：22名



○講座の満足度

日本語を主な題材とした講座においては、身近な例を多く出しながら進めたことで、生徒にとっ

てはわかりやすいものであったようである。日本語の難しさや有効な使い方について知ることができ、様々なことが修得できたという意見も見られた。

ギリシア神話の講座においては、これまであまり触れたことのなかったギリシア神話についてわかりやすく説明を受けたとの回答もあり、新たに興味を持ったという生徒が多かった。

### ○講座内容の理解

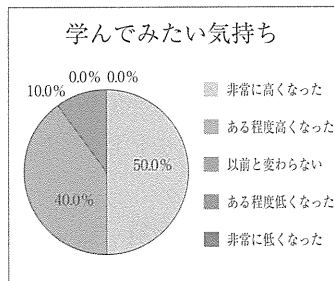
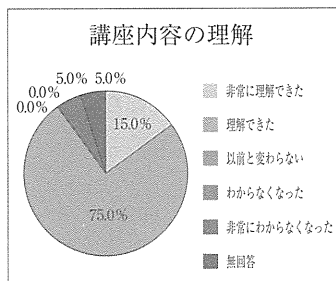
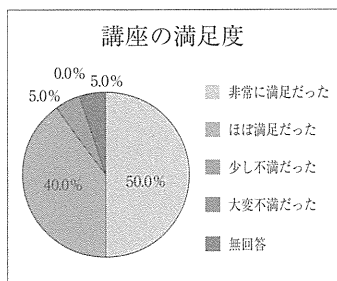
生活の中にたくさんあふれている日本語にもいろいろな意味が込められている、日常の中にも文学として学べることがあることが理解できた、という回答が多く見られた。

ギリシア神話の講座については、神話から見出せる思想や文化など、様々な面から解釈をする必要があるということが、講座を受講して理解できたという回答もあった。「ギリシア神話に込められた深い意味を考えることで道徳が学べたり、想像力が膨らんだりするのかもしれない」という意見もあり、ギリシア神話に触れたことで刺激を受けたようである。

### ○将来文学を学んでみたいという気持ちの変化

「文学を研究する」ということについて、最初はどういうことをしているのかイメージをすることができなかった生徒が多かったようだが、講座を受けたことで、文学の中にも様々な研究対象があるということがわかり、興味を持ったという生徒が多かった。

## <文学探究講座 第2部> 受講者：20名



### ○講座の満足度

講座を受けて実際にどのようなフィールドワークを行っているのかということがわかり、興味を持ったという生徒が多かった。「文学」という領域であっても、考古学や人文学や言語学など、様々な分野が結びついてその学問が成立しているということに奥深さを感じることができたという回答もあった。

### ○講座内容の理解

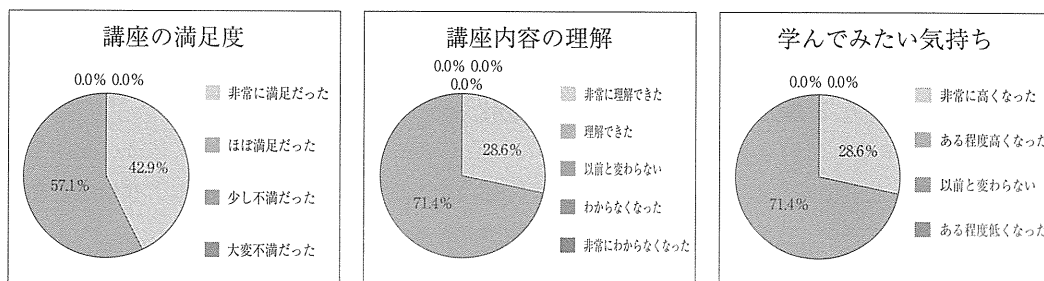
地理と文学との関連性について、最初はイメージが持ちにくかった生徒が多かったようであるが、講座を通して、地図を歴史的に調べて現在の地図と重ねてみたり、車いすの利用者と実際に道路を

歩いたりして通りにくい所を調べて地図に表したりする研究があることを知り、文学と地理は深くつながっていることが理解できたという回答が見られるなど、講座内容への理解は深まったようである。

### ○将来文学を学んでみたいという気持ちの変化

講座を受けて、文学部において地理学を取り扱うなど、文学という領域において様々な研究内容があるということを知ったという生徒が多かった。これによって文学部のこれまでのイメージが変わるとともに、文学についての視野が広がり、学びたいという気持ちが大きくなったとの回答も見られた。

### <地域医療探究講座 第1部> 受講者：14名



### ○講座の満足度

現在の日本の医療の優れた点・改善すべき点や海外の医療制度を知ることができ、医療に対する見方が広がったという生徒が多かったようである。また、写真や図を使った講義を行うことで生徒にとってはわかりやすく、これからの地域医療にも関心を持つことができたと考えられる。

### ○講座内容の理解

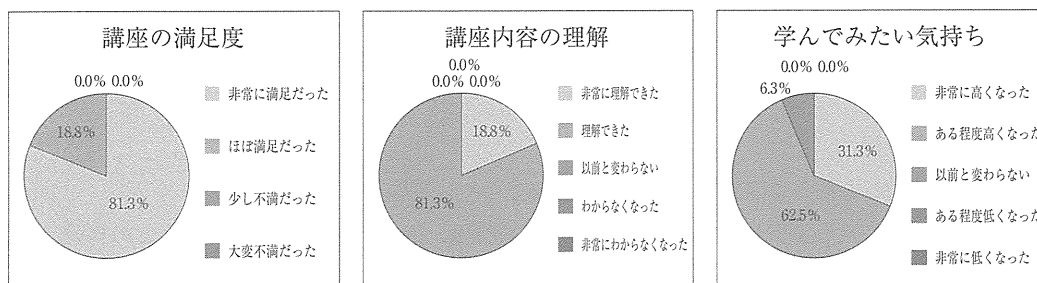
地域医療においては、地域社会やその土地の文化等の文脈的側面と深く関わっているということを理解できたと回答する生徒が多かった。また、医療制度のあり方と日本国内の医療の地域間格差についても関心を持つことができたという意見もあった。

### ○将来地域医療について学んでみたいという気持ちの変化

全体として、地域医療ならではの問題点を認識し、どうすれば医療を取り巻くシステムが有効に機能していくのかということを考えてみたいという生徒が多かった。また、地域間格差や貧富の差によって医療がどのように変わってくるのか、あるいは医師・看護師の偏在性や医療設備の差がある中で、医療がどうあるべきなのかということを考えてみたいという意見も見られた。



## <地域医療探究講座 第2部> 受講者：16名



### ○講座の満足度

実際に聴診器等の器具を使用したり、医学書を基に病名を調べてみたりしながら体験することで、生徒にとって理解しやすく、満足のいく内容になっていたと思われる。講座を通して医者の患者に対する考え方がわかってよかったという意見もあった。

### ○講座内容の理解

地域医療における意思と患者のコミュニケーションの重要性について学ぶことができたという回答する生徒が多かった。これをきっかけに、地域医療の現状についてさらに学んでみたいと考える生徒もいたようである。

### ○将来地域医療について学んでみたいという気持ちの変化

地域圏による医師の不足という問題に対して、どのように対処し得るのかということを中心に深めてみたいという回答が多く見られた。また、これをきっかけに地域医療のあり方についてさらに学びたいという生徒や、具体的な看護師や医師の仕事の内容をさらに詳しく勉強してみたいという生徒もいた。

## 2. 大学発学校支援プロジェクト (CoREF)

### (1) 活動の経過と内容

大学発教育支援コンソーシアム事業（通称CoREF）は「小・中・高等学校の先生方に大学から生まれる新しい知識やその教育方法を発信し、みんなで教育の質を高めること」を目的として、賛同する大学・学会・産業界などが連携し、新しい理想の教育を実現するシステムである。東京大学に設置されている大学発教育支援コンソーシアム推進機構が中心となって進められており、名古屋大学は大学発学校支援プロジェクトの連携協力大学である。2009年度から2010年度までの二年間は、理学部が担当部局となっていたが、2011年度から教育発達科学研究科に交代した。2011年度より「中等教育改革実践の分析と共有化」をテーマに掲げて、研究者や現職教員の方にご協力いただき、主として高校教育の現状分析と改革課題、改革実践について検討を進め、それを広く情報発信し、今

後の展望について議論を進めてきた。

具体的には、①公開研究会の開催②研究会の成果の共有の二つの活動に取り組んできた。以下、その内容を示す。

### ①公開研究会

高校教育に関わる様々な問題についての公開研究会や、実践報告を行った。

高校教育全体に関わる問題として、(a) 高大接続問題、(b) 高校教育と職業世界との接続、(c) 戦後高校教育改革の課題、の三点を掲げ、研究者を招いて公開研究会を行なった。また、高校教育実践の課題として、(a) 大学入試と高校教育、(b) 高校におけるキャリア教育を掲げ、同様に公開研究会を開催した。さらに、前述のような課題の中で、高校現場ではどのように教育実践に取り組んでいるのかを、複数の高校種の現場の教員の方々を招いて実践報告をしていただいた。

第1回公開研究会（2012年2月27日（月）14：00－17：00）

講師：佐々木隆生北星学園大学教授（北海道大学名誉教授）

テーマ：「高大接続をめぐる現状と問題点～現行の大学入試制度の問題点」

第2回公開研究会（2012年3月31日（土）14：00－17：00）

講師：谷口典雄福井県立足羽高等学校教諭

テーマ：「大学入試制度下での高校教育の現状と課題」

講師：佐々木隆生北星学園大学教授（北海道大学名誉教授）

テーマ：「『高大接続入試』が提起するもの」

第3回公開研究会（2012年4月21日（土）14：00－17：00）

講師：佐々木隆生北星学園大学教授（北海道大学名誉教授）

テーマ：「高大接続問題解決の手段としての『高大接続テスト』の制度設計と課題」

第4回公開研究会（2012年5月19日（土）18：00－20：00）

講師：児美川孝一郎法政大学教授

テーマ：「職業との接続から見た高校教育の現状と課題」

第5回公開研究会（日時：2012年6月23日（土）13：00－17：00）

講師：跡部重夫氏（塾の会・愛知 テスト委員会代表（名東ゼミナール主宰））

テーマ：「将来の人生を見つめた高校・大学選び－塾の進路指導現場からの報告」

実践報告：今井雅人氏（高等学校教員）、袴田陽士氏（高等学校教員）

第6回公開研究会（日時：2012年7月21日（土）14：00－17：00）

実践報告：小池由美子氏（埼玉県立川口北高等学校教諭）

テーマ：「高校での学びを大学につなぐために－協働的な学習と学校づくりの試み－」

論点提示：「第5回公開研究会の実践報告の検証」（名古屋大学CoREF事務局員 米津直希）

第7回公開研究会（日時：2012年10月27日（土）17：00－19：00）

実践報告：小池由美子氏（埼玉県立川口北高等学校教諭）

テーマ：「キャリア教育と学力形成－生徒が学びの主人公・社会の主人公になるために－」

第8回公開研究会（2012年11月17日（土）14：00－17：00）

実践報告：林萬太郎氏（元工業高校教諭）

テーマ：「工業高校からみた高校教育の課題」

第9回公開研究会・シンポジウム（日時：2012年12月22日（土）13：00－17：00）

シンポジウムテーマ：高校教育改革の今日的動向－高校に問われる「質保障」とは－

基調報告：安彦忠彦神奈川大学特別招聘教授（中央教育審議会委員）

テーマ：「中教審・高校教育部会における改革論議」

パネリスト：佐々木隆生北星学園大学教授（北海道大学名誉教授）高大接続の観点から」

パネリスト：佐々木英一追手門学院大学心理学部教授「職業世界との接続の観点から」

第10回公開研究会（日時：2013年1月12日（土）14：00－17：00）

実践報告：浦田直樹氏・小山民氏（大阪・秋桜高等学校教諭）

テーマ：「単位制・通信制高校の取り組み(仮)」

実践報告：中嶋義博氏（大阪府立布施北高等学校教頭）

テーマ：「今後のキャリア教育のありかた～社会で必要な力を高校教育でどう育成するか－普通科高校におけるデュアルシステム～」

第11回公開研究会（日時：2013年2月23日（土）14：00－17：00）

講師：佐々木英一氏（追手門学院大学心理学部教授）

テーマ：後期中等教育における職業教育の課題－国際的動向からみた高校教育の位置づけ

第12回公開研究会（日時：2013年3月16日（土）14：00－17：00）

論点提起：植田健男氏（名古屋大学教育学部教授）

テーマ：高校教育の今日的課題－名古屋大学CoREF公開研究会総括討論－（仮）

## ②公開研究会の成果の共有

名古屋大学CoREFの公式ウェブサイトを作成した。ウェブサイトでは、(a) 公開研究会の案内 (b)

公開研究会で配布された資料及び当日の報告記録の掲載を行い、研究会や研究会での報告やそこでの論点を広く共有することに努めた。

<名古屋大学CoREF公式ウェブサイト>

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/faculty/ueda/CoREFHP/index.html>

## (2) 活動の成果及び今後の課題

### ①活動の成果

#### 1) 学校現場である高校教育への高校教育の現状と課題の共有

公開研究会には最大で30名以上が参加した(2012年11月まで)。特に、現職の高校教員の参加が多く見られ、熱心に議論に参加された。また、塾関係者も参加することで、議論の幅はさらに広がった。このことから、公開研究会を通して、高校教育の現状と課題の共有と、今後の展望についての論点の整理を行うことができた。また、ウェブサイトの活用により、研究会の開催情報、及び成果を広く伝えることができた。

#### 2) 高校教育関係者のネットワーク構築

公開研究会は、現職の高校教員同士、あるいは高校教育研究者と高校教員の交流の場ともなっていた。近隣地域における高校教員同士のつながりが構築されたことにより、今後の具体的な高校教育実践の創出のためのネットワーク形成が組織されたと考える。

さらに、公式ウェブサイトで公開した情報がきっかけとなり、実践報告を行った高校への学校見学が行われるなど、主催者の手を離れた場での交流も進みつつある。こうしたことが今後続けば、広域なネットワークが構築される可能性も考えられるだろう。

### ②今後の課題

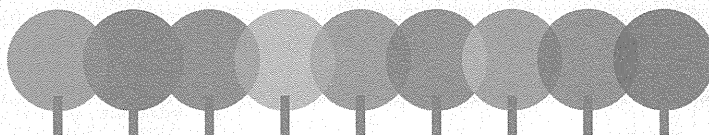
戦後、わが国の高校教育(後期中等教育)は数次にわたる改革を経て今日に至っており、高校進学率は今や98%という水準にまで達している。しかし、そのことは、決して完全な中等教育が普及したことを意味しているわけではない。高度経済成長期には、産業界からの学校教育への社会的要請を理由として、高校教育制度の「多様化」が進められ、その後、進学率の増大により高校入学者層が大きく変化したことを理由として、さらなる高校教育制度の「多様化」が進められてきた。

このような形で「多様化」を重ねてきた高校教育が、近年、高等教育への接続について問題が指摘されるようになってきている。さらには、職業世界との接続においても重大な問題が存在していることも明らかにされてきている。このように、高校教育においては高等教育、職業世界それぞれとの接続の観点から、改めてその改革が議論されるようになってきている。こうした状況の中、わが国における戦後の高校教育改革とは何であったのか、また、現在、それらはいかなる到達点にあって、何が課題となっているのかを明らかにすることが求められていると考える。

同時に、現在多様な問題を抱える高校現場において、こういった取り組みが行われているのか、その実践から本質的な課題や論点を抽出することも必要となろう。また、高校現場・高校教育研究者の連携を通して、問題状況の把握及び解決のための方途を構築することも重要である。

これまでの活動を通して、上記の問題点について多少なりとも接近を試みたが、これらの問題については継続的な活動が必要となる。活動を通して構築された高校教育関係者のネットワークを活用しつつ、今後も研究・実践に継続的に取り組んでいく必要があるだろう。

# 名古屋大学の知を高校生に



2012年度 豊かな人間形成のための

対象：高校生／受講無料

## 学びの杜・学術コース

- 電子工学探究講座
- コンピュータ活用探究講座
- メンテナンス工学探究講座
- 生命科学探究講座
- 地球市民学探究講座
- 人間発達科学探究講座
- 視覚文化探究講座
- 文学探究講座
- 地域医療探究講座

### 【学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む】

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生のみなさんを対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しみと厳しさを体験してもらうという目的で開催された本格的な「学術的な探究講座」です。

大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生の皆さんが、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されています。ぜひ、ご参加ください。

### 学びの杜・学術コースの特色

1. 大学における専門的な学びを体験することにより、自分の適性や興味・関心について考えるきっかけを得ることができます。
2. 問題発見と解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多面的な科学的思考力やリテラシーを育むことができます。
3. 最前線で活躍する研究者や同じ目標をもつ仲間との学び合いを通して、幅広い学びのネットワークをつくることができます。
4. 将来に向けて自分のキャリアを自覚的に選択する第一歩を踏み出すことができます。

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター (CSES)  
<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

### 受講申し込みについて

申し込みは、①受講希望講座名(人間発達科学探究講座についてはコース名、文学探究講座については日にち、地域医療探究講座については部を明記)②学校名 ③学年 ④氏名(ふりがな)⑤住所 ⑥電話番号 を明記し、下記のメールアドレス宛へお願いします。

※申し込みが多数の場合は、各講座の申し込み締め切り後、抽選をおこないその結果を連絡します。 ※会場・場所については、受講許可の案内通知の中でお知らせします。  
※申し込み方法は、中等教育研究センターのホームページにおいても掲載されていますので、ご参照ください。 <http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.htm>  
※申し込み確認や受講確定等の通知をメールで行いますので、こちらからのメールを受信出来るようにしておいてください。

申し込み・問い合わせ先

〒464-8601 名古屋市中千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター  
[cses@educa.nagoya-u.ac.jp](mailto:cses@educa.nagoya-u.ac.jp)

## 電子工学探究講座

なぜ、日本人は英語の聞き取りで苦労するのか？この講座では英語を聞き取りやすくする電子工学的工夫について分かりやすく紹介します。試作器はおみやげに差し上げますので、英語力アップに活用してください。

定員：25名

申し込み締め切り：7月13日(金)

担当部局：工学研究科

	日時	担当者	テーマ	概要
1	8月10日(金) 10:00-12:00	古橋武	不思議と英語が聞こえてくる！	英語の聞き取りで苦労していませんか？英語を聞くことに神経を集中しても、5分もたないことはありませんか？どうすれば聞き取れるのか？本講座では、英語を聞き取りやすくする電子回路「英語補聴器」の分かりやすい紹介をします。講師自身が「耳からうるこがおちた！」体験を語り、皆さんには「英語補聴器」を試作してその効果を体験してもらいます。

## コンピュータ活用探究講座

数学・物理の理解に苦しんでいませんか？この講座では、コンピュータの活用によりイメージで高校数学・物理を理解しやすくしているWebページを訪ね、その活用法について探ります。

定員：25名

申し込み締め切り：7月13日(金)

担当部局：工学研究科

※受講資格：物理1と数IBを履修中もしくは履修済みであること

	日時	担当者	テーマ	概要
1	8月10日(金) 13:00-14:00	古橋武	数学・物理がみえてくる！	数学・物理の理解に苦しんでいませんか？最近Web上に、コンピュータを活用してイメージで高校数学・物理を理解しやすくする工夫を紹介するページが増えつつあります。試験勉強をしていても分からないとき、このようなページを知っていると大きな助けになることがあります。この講座では講師自身の工夫を紹介するとともに、これらWebページの活用法を受講生と一緒に探ります。

## メンテナンス工学探究講座

社会の発展とともに、道路・鉄道・上下水道・電力施設・通信施設など生活に欠かせないインフラがストックされていきます。成熟社会では、ストックされたインフラを適切に維持管理しながら運用していくことが求められます。この講座では、インフラを守る専門家インフラクターへの第一歩を経験してもらいます。

定員：25名

申し込み締め切り：7月6日(金)

担当部局：工学研究科

	日時	担当者	テーマ	概要
1	7月25日(水) 13:00-14:30 14:45-16:15	中村光 国枝稔	橋の健康診断と治療	インフラの代表的な構造物である橋を取り上げ、橋が変化する病気の原因、橋がどうなっているかを知る診断技術、橋を健康に戻すための修復技術を紹介しします。また、名古屋大学の中に実際に使われていた橋を移設して、世界で初めて作られた点検研鑽用の橋を使って、橋の診断をする臨床実習を行います。

## 生命科学探究講座

第1部は、『生命を支えるしくみ』について、生命農学研究科の先生方に講義をしていただきます。第2部は、『生物多様性からみた生命』について、博物館で学びます。

定員：30名

申し込み締め切り：6月22日(金)

担当部局：名古屋大学博物館・生命農学研究科

	日時	担当者	テーマ	概要
第1部：生命を支えるしくみ 場所：顕微鏡高校第1総合教室				
1	7月18日(水) 10:00-12:00	上野山賢久	生殖を科学する	動物の生殖機能は脳で制御されている。脳とホルモンのはたらきを中心に、生殖機能をコントロールするメカニズムについて解説する。
2	7月18日(水) 13:00-15:00	大塚裕一	光る生物の科学	様々な光る生き物を紹介し、その発光のメカニズムと最先端研究への応用について解説する。
3	7月19日(木) 10:00-12:00	海老原史樹文	心は遺伝するか？	動物では不安や恐怖などの心の状態を行動で判断することができる。講義では、マウスの行動と遺伝子との関係について学び、ヒトの心理と遺伝との関係について考える。
4	7月20日(金) 10:00-12:00	小田裕昭	食べた物がどうやって栄養になるか	食べたものが身体に取りこまれる消化吸収のメカニズムと、それが生物にとってどのような役割を果たすかについて学ぶ。
第2部：生物多様性からみた生命 場所：名古屋大学博物館				
5	7月23日(月) 10:00-12:00	吉田英一	生物が造るさまざまな鉱物 —地球上の物質循環と生命	生命体を構成する物質の循環と鉱物との関係について、鉱物標本などを用いて講義する。
6	7月23日(月) 13:00-15:00	東田和弘	生物多様性(Biodiversity) —多様性って何だろう	生物多様性を例に、「多様性」の意味を考える。多様性は守るべきか否かについて、学生に自分で考えてもらう。
7	7月24日(火) 10:00-12:00	門脇誠二	石器から見る人類の多様性と進化	過去に存在した多様な人類が残した石器文化について解説し、私たち現人類の能力や行動の特徴について考える。
8	7月24日(火) 13:00-14:30	新美倫子	骨から学ぶ：出土骨からみえるもの	遺跡に残っている骨から昔の人の生活を考える。出土した魚骨の分類も行う。
9	7月25日(水) 10:00-12:00	西田佐知子	植物から学ぶ生物の多様性	植物は地球上に約28万種いると言われていて、なぜこんなに多様なのか？実際の植物を観察しながら、生物の多様性について講義する。
10	7月25日(水) 13:00-15:00	大路樹生	化石から探る生物の多様性	化石を観察し、そこから過去の地球や生命の歴史についてどのような事が分かるのかを解説する。

## 地球市民学探究講座

地球規模のさまざまな問題—貧困、民族紛争、多文化共生など—を取りあげながら、異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。

定員：40名

申し込み締め切り：5月25日(金)

担当部局：国際開発研究科・教育発達科学研究科・  
情報科学研究科・留学生センター・高等教育研究センター ほか

日 時	担当者	テーマ	概要
1 5月26日(土) 10:00-12:00	齋藤洋典	グローバル化と他者理解	人の身になって考えるとはどういうことか。同じ文化及び異なる文化の背景をもつ人々が互いに理解しあうことの意味とその方法を一緒に考えます。
2 6月2日(土) 10:00-12:00	河野明日香	アジア諸国と国際教育協力	アジア諸国における国際教育協力はどのように展開されているのでしょうか。また、そこには国際機関やNGO等のどんな取組みがあるのでしょうか。中央アジア諸国におけるさまざまな事例をもとに、国際教育協力のあり方について考えていきます。
3 6月9日(土) 10:00-12:00	山田尚子	学校に行く意味を考える	アフリカでは、学校に行かない者が沢山います。日本で当たり前のように学校に行きますが、なぜそうするか考えたことがありますか？学校の意味、学ぶことの意味をアフリカ社会に照らしながら考えていきます。
4 6月23日(土) 10:00-12:00	サガヤラージ・ アントニサーミ (南山大学)	多様性における一致への働きかけ： インドの場合(1)	インドにおいて多文化・多民族・多宗教が共存(共生)するあり方を事例として紹介していきます。そこから、自文化を保持しつつ、多様性を認めるグローバルなあり方を考えていきます。
5 6月23日(土) 13:00-15:00	サガヤラージ・ アントニサーミ (南山大学)	多様性における一致への働きかけ： インドの場合(2)	Self Help Groupという地域住民による自主的・民主的な活動を通して、自文化を保持しつつ、民族・宗教・カーストの垣根を越え、多様性を認め合って生きる、グローバルな共存(共生)のあり方を考えていきます。
6 6月30日(土) 10:00-12:00	佐藤良子 (愛知淑徳大学)	国民的ステレオタイプ	ステレオタイプとは何か？なぜ人々はその国民の人たちに対してステレオタイプを持つのか？こうしたステレオタイプには信憑性があるのか？このような質問に答えていきます。
7 7月18日(水) 10:00-12:00	近田政博	世界の学校文化 —その多様性が示唆するもの—	学校の文化やルールは国や地域によって大きく異なります。なぜそのような違いが生まれるのでしょうか。学校文化の違いは生徒の成長にどのような影響を与えるのでしょうか。さまざまな国の事例について意見交換を通して、日本の学校文化を相対的に見るができるようになるでしょう。
8 7月18日(水) 13:00-15:00	岩城奈巳	日本人の英語教育に対する 学習不安	日本人は外国語、特に英語を学ぶにあたり、いろいろな不安を感じます。自分の発音がおかしいのではないかと、間違えることによって人に笑われるのではないかなど、多くの不安に直面します。こうした英語学習の不安について、一緒に検討します。
9 7月19日(木) 10:00-12:00	野田真里 (中部大学)	国際協力と地球市民	貧困なき地球社会のために—他人事ではない日本の、そして世界の貧困問題の解決のために、何をすべきなのか、そして私たち市民は何かできるのかについて、参加型ワークショップの手法を用いて考えます。
10 7月20日(金) 10:00-12:00	米澤彰純	グローバル化のなかの大学	現在、新興国を中心に世界中で大学生・留学生の数が増え続け、日本の大学も、グローバル人材育成が求められています。変化する世界の大学がどこに向かおうとしているのかを考えます。

## 人間発達科学探究講座

教育と人間発達について探究する5つのコース、『第1コース(生涯教育開発)：生涯にわたる学びと家族』『第2コース(学校教育情報)：授業について考える—学ぶ立場から教える立場へ—』『第3コース(国際社会文化)：異文化との出会いと自己探究のドラマ』『第4コース(心理社会行動)：人間の行動と心を解き明かす—心理的なものを測る—』『第5コース(発達教育臨床)：臨床心理学を活用して危機に備える』を開講します。

定員：各コース15名

申し込み締め切り：7月6日(金)

担当部局：教育発達科学研究科

※各コース別に募集します。受講希望が多数の場合は、抽選となります。  
複数のコース選択可。全コースを修了した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当者	テーマ	概要
<b>第1コース【生涯教育開発】</b>			
1 7月30日(月) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:00	横山悦生 吉川卓治	生涯にわたる学びと家族	私たちは、学校だけではなく、家族や地域のなかで、遊び、働き、学んでいます。卒業後も多くの学ぶ機会があります。このコースでは、学校内外での生涯にわたる遊び、働き、学ぶ場にはどのようなものがあるか、人々はどのようにそれをおこなっているのかを理解し、第二に、子どもが生まれ、育まれる「家族」というものの成り立ちについてさまざまな面から考えていきます。
<b>第2コース【学校教育情報】</b>			
2 8月21日(火) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:00	的場正美 柴田好章	授業について考える —学ぶ立場から教える立場へ—	みなさんは、小学校、中学校、高等学校と数え切れないほどの授業を、学ぶ側から体験してきました。このコースでは、そうした体験を振り返りながら、教える立場から授業という人間形成の場を捉え直してみます。授業を計画・実施するための基本を学んだ上で、教材や発問を工夫し、模擬授業をしてみます。これを通して、学ぶ楽しさと意味を探求していきます。
<b>第3コース【国際社会文化】</b>			
3 7月20日(金) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:00	松下晴彦 早川操	異文化との出会いと 自己探究のドラマ	現代社会は、国際化・グローバル化が多くの問題をもたらしながら加率的に進展していく社会です。このコースでは、まず異文化の人びととの出会いと語り合いを体験してもらい、次にその体験から自文化を再発見し、自己を表現しながら、(異文化間の)相互理解の重要性について考えていきます。
<b>第4コース【心理社会行動】</b>			
4 8月1日(水) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:00	石井秀宗	人間の行動と心を解き明かす —心理的なものを測る—	テストや性格検査の得点は何を表しているのか考えたことはありますか？ それらの得点に疑問を感じたことはありませんか？ このコースでは、学力や性格など心理的なものを測るということについて、体験的な学習を通して、その意味を考えていきます。
<b>第5コース【発達教育臨床】</b>			
5 8月20日(月) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:00	窪田由紀 松本真理子 森田美弥子	臨床心理学を活用して 危機に備える	昨年8月の東日本大震災をきっかけに、あらゆる分野で防災、減災の取り組みが広がっています。本講座では、危機に遭遇した人々の心理反応とケアの概要を学んだ後、臨床心理学の知識と技法を活用した「心の減災能力を高めるためのワークショップ」を受講生と共に企画・実施します。



## 視覚文化探究講座—『視覚力』をつける—

私たちは視覚の時代に生きています。アニメ、ゲーム、TV、インターネット、等等、多くの情報が、目に見える形で提供されます。この講座では、そのどこにも存在している写真を取り上げて、視覚の力について考えてみます。アートの最先端の表現における写真を紹介し、また参加者が実際に実験的な写真を撮ることを試みるなかで、見る力、『視覚力』を身につけましょう。

定員：25名

申し込み締め切り：7月13日(金)

担当部局：情報科学研究科

名古屋大学ヴィジュアルスタディーズネットワーク

※受講生は、デジタルカメラやケータイ電話など撮影のできる器械を持参してください。

日 時	担当名	テーマ	概要
1 8月1日(水) 10:00-12:00 13:00-15:00	茂登山清文	ポートレイトを見る／撮る	アートの写真の最先端を見ましょう。そして、みんなでポートレイト写真を撮り、視覚の伝達力について考えます。

## 文学探究講座

文学部では、人間のさまざまな営みを通して人間について知ろうとしたり、考えたりしています。過去の、そして現在の人間がどうい存在であるかを知ることは、未来に向けてとても大切なことです。先生たちの案内とともに、その広い世界をのぞいてみてください。

定員：50名

申し込み締め切り：7月13日(金)

担当部局：文学研究科

※全回出席を前提としていますが、1日目の受講も受けつけます。全回修了した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当名	テーマ	概要
1 7月27日(金) 10:30-12:00	堀村 耕	むかしのふみをよむといふこと	人は、書物より古人と語り合うことが出来ます。また、古人の残した手紙から、その人間性に直接迫ることも可能です。ふみ(書物と手紙)を通して死者と付き合うことは、最も人間らしい営みで、文学部が取り組んでいる仕事の一つです。芭蕉の残した面白い手紙を取り上げて、そういった事例を語ります。
2 7月27日(金) 13:00-14:30	齋藤文俊	日本語・にほんご・ニホンゴ・NIHONGO	みなさんが外国の方に「日本語を勉強したいんだけど、文字をいくつ覚えれば良いのですか?」と聞かれたら、何と答えますか? 漢字・ひらがな・カタカナ・ROMAJIと、4種類の文字を使用する日本語の特徴についてちょっと深く考えてみましょう。
3 7月27日(金) 14:45-16:15	吉武純夫	「バンドラの箱」と「カドメイアの狐と犬」	ギリシア神話には、単純素朴ながら深い意味を含んだ話がたくさんあります。この授業では、バンドラの箱の話と、カドメイアであったという狐と犬の対決の話を取り上げ、それらの中に何を読み取ることが出来るかを探ってみます。そこから、神話というものの本質をみかきまえることができるでしょう。
4 8月3日(金) 10:30-12:00	周藤芳幸	ナイルのほとり ギリシア文化に出会う	紀元前の最後の300年間、エジプトにはマケドニア系の王朝による支配のもとで、在地の伝統文化と外来のギリシア文化が複雑に混濁する世界が展開していました。この講義では、この世界に生きた人々の暮らしを復元するために行っている現地調査の様子を紹介しながら、フィールド人文の魅力についてお話ししたいと思います。
5 8月3日(金) 13:00-14:30	奥貫圭一	地図から探る人文学	地図はたくさんの研究分野で活用されてきました。近年では、GIS(地理情報システム)と呼ばれる道具が登場し、コンピュータで地図を効果的に扱うことができるようになりました。地図そしてGISの活用は人文学の研究に浸透しつつあります。ここでは、その事例を紹介しましょう。

## 地域医療探究講座

みなさんが生きていく、これからの日本に必要な地域医療の姿とはどのようなものでしょうか? 第1部では、世界と日本の医療システム、医師養成システムの違いから、日本の地域医療の現状を考えます。第2部では、実際の診療現場に焦点を当て、医師は何を考えて診療を行っているのか、患者は何を感じて診療を受けているのかを、医学教育手法のトレンドでもあるロールプレイ、シミュレーション等を体験してもらいます。未来の地域医療と一緒に探しましょう。

定員：第1部=50名 / 第2部=25名

申し込み締め切り：7月23日(月)

会場：第1部=医学部講義室(鶴舞キャンパス)

第2部=医学部附属病院スキルズラボ(鶴舞キャンパス)

担当部局：医学系研究科地域医療教育学寄付講座

日 時	担当名	テーマ	概要
第1部 会場：医学部講義室(鶴舞キャンパス)			
1 8月20日(月) 10:00-12:00	青松棟吉 安井浩樹	世界と日本の医療事情	日本には、国民皆保険制度という医療保険制度があります。我々は日常的に、保険証をもって医療機関を受診していますが、諸外国ではどのようなものなのでしょうか? 諸外国との比較を通じて日本の医療システムの特徴を知り、これからのヘルスケアシステムを考えます。医師の養成課程である、医学教育システムの違いにも言及します。
第2部 会場：医学部附属病院スキルズラボ(鶴舞キャンパス)			
2 8月20日(月) 13:00-15:00	安井浩樹	医師・患者の模擬体験	「今日はどうされましたか?」「昨日から頭が痛くて…」日常的な医療現場のささいな会話ですが、この一言で医師は何を考え、どんな情報を得ているのでしょうか? 患者さんはどんな思いで、この一言をこたえているのでしょうか? 臨床推論と医療コミュニケーションの実際を学び、体験していただきます。
3 8月20日(月) 15:15-17:15	青松棟吉	シミュレーション教育とその目標	様々なシミュレータが医学教育に導入されています。そして、たんなる模擬ではなく、リアリティ、心の中のリアリティを出す為に様々な試みがされています。そんなシミュレーション教育の一端を体験していただきます。また、BLS(Basic Life Support: 初期救命処置)の経験もしていただきます。

# オープン・クラス参加表

お願い：準備の都合もありますので、お手数をおかけしますが、ご参加いただける場合は、この参加票を10月31日(水)までに、①学内便、②FAX、③E-mailのいずれかでご返送ください。あて先は下記のとおりです。

《参加表送り先》

①学内便：附属学校 石川久美宛

②FAX：内線 2696 附属学校 石川久美宛

③E-mail：kumi@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

附属学校オープン・クラスに参加します。

1. 御芳名 [ ]
2. 御所属 [ ]
3. 御連絡先  
○内線番号 [ ]  
○メールアドレス [ ]
4. 参加予定日・予定時限 (参加を予定されるものに丸をつけてください)  
○11月6日(火) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )  
○11月7日(水) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )  
○11月8日(木) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )  
○11月9日(金) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

## オープンクラス参加表 お控え

参加予定日・予定時限

- 11月6日(火) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )  
○11月7日(水) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )  
○11月8日(木) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )  
○11月9日(金) 2時限目( ) / 3時限目( ) / 4時限目( )

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 中等教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学教育学部附属中・高等学校内

## オープン・クラスへのお誘い

教育発達科学研究科附属中等教育研究センター  
センター長 植田 健 男

2005年より全学に向けて附属学校オープンクラスを開催し始めましたが、たいへんご好評を頂き、今や附属学校の恒例行事となっております。今年度は、11月6日～9日の四日間にわたって開催させて頂くことになりました。

附属学校は、総合研究大学における附属中学・高等学校として、高等教育を充実させるために必要な中等教育の改善に関する実験的研究開発に取り組んできました。先の学習指導要領に書かれる前から実践を積み重ねてきた独自の総合学習「総合人間科」をはじめ、2000（平成12）年に国立附属では唯一の「併設型中高一貫校（中学各学年2クラス、高校各学年3クラス）」となってからは、「サイエンス・リテラシープロジェクトⅠ」や「サイエンス・リテラシープロジェクトⅡ」など特色ある授業を展開するとともに、各部局の先生方のご協力を頂きながら「学びの杜・学術コース」をはじめ、大学との連携をいっそう追求してきています。

また、2005年度以降、高校での学びがどのように大学の学びと接続するかという課題に関して実践研究を進めており、2006年には附属学校として3冊目の著作『学びをつなぎ未来を拓く』（黎明書房）を刊行いたしました。その後、2009年度からは短期集中型高大連携企画「中津川プロジェクト」の実施や名古屋大学全学教育科目「基礎セミナー」への附属高校生の参加が始まり、さらにはスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）のプログラムも2011年度から第二期目に入るなど、大学との連携を一層深めてきております。

ぜひとも、この機会に附属学校にお越し頂いて、授業を通じて新たな教育の取り組みや中・高校生たちの活動を実際にご覧頂ければ幸いです。

ご指導のほど、何とぞよろしくお願い致します。

### 《オープンクラス スケジュール》

1. 日程：2012年11月6日（火）～11月9日（金）
2. 公開授業の時間帯  
午前9時40分（2限目）～12時30分（4限目）（4日間とも）  
\*2時限目：9：40～10：30 / 3時限目 10：40～11：30 / 4時限目 11：40～12：30
3. 控え室・休憩場所  
第1会議室（1階） \*本校教員がご案内します。
4. お問い合わせ先  
内線：2680（附属学校職員室） 担当教員：石川・三小田<sup>さんこだ</sup>  
E-mail:kumi@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

## 5. 公開授業一覧

日 程	11月6日 (火)	11月7日 (水)	11月8日 (木)	11月9日 (金)
2限 9:40～10:30	SLPⅡ 自然と科学 高1A (竹内、松本、曾我) 中1A 英語 (仲田)	中3B 国語 (杉本)	高1A 数学 (渡辺) 中3A 理科 (中村忍) 高2A 地理 (佐藤俊樹)	SLPⅡ 地球市民学 新教科 (高2B) 高2A (中村明彦、原、三 小田)
3限 10:40～11:30	SLPⅡ 自然と科学 高1C (竹内、松本、曾我)	高2B 国語 (今村) 中1B 数学 (金子)	高2A 英語 (大矢)	SLPⅡ 地球市民学 高2B (中村明彦、原、三 小田)
4限 11:40～12:30	SLPⅡ 自然と科学 高1B (竹内、松本、曾我)	中3A 社会 (隅田)	高3 化学Ⅱ (石川)	SLPⅡ 地球市民学 高2C (中村明彦、原、三 小田)

※平成23年度より、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) の継続新規一年次の指定を受けています。サイエンスリテラシープロジェクトⅡ (SLPⅡ) はSSHプログラムの一つです。

高1のSLPⅡ「自然と科学」は理科・数学・社会の教員がTTで担当します。2限目の高1A、3限目の高1C、4限目の高1Bは同じ内容です。

高2のSLPⅡ「地球市民学」は体育・家庭科・英語の教員がTTで担当します。2限目の高2A、3限目の高2B、4限目の高2Cは同じ内容です。

### 「中等教育研究センター」についてのご紹介 *Center for Secondary Education Studies (CSES)*

教育発達科学研究科の研究科内措置によって設置された「中等教育研究センター」は、大学と附属学校とを橋渡しする研究機関です。高等教育を充実するために、中等教育に関するさまざまな問題を総合的に把握しつつ、附属学校をフィールドとして実証的・理論的に解明し、全国の中・高校や教育委員会、文部科学省に向けて、実践方法や教育プログラム、政策などへの諸提言を行うことを目的とし、他方、諸外国との中等教育に関する実践研究交流も進めています。

■名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センターホームページ  
サイトURL：<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~cses/index/index.html>